

亜鉛メッキ鋼板の加工性の特徴

種 類	原 板 の 加 工 性	めっき層の加工性	総 合 評 価	
電 気 亜 鉛 めっき鋼板	Zn	使用原板の機械的性質はめっき工程より前の工程で付与されます。めっき工程では熱影響を受けないため熱延鋼板、冷延鋼板と同等の加工性をもっています。	展延性の優れた純亜鉛層を持ち、脆弱な鉄・亜鉛合金層がなく、めっき層がはく離することはありません。	熱延鋼板、冷延鋼板と同等の加工性をもっています。
	Zn-Ni 系 Zn-Fe 系	使用原板は一般にめっきライン内の連続焼純で機械的性質が付与されます。めんのライン内の連続焼純は短時間での過熱、冷却となり、本来の工程を通った熱延鋼板、冷延鋼板に比べ加工性が劣ります。高級な原板を使用するか、特殊な処理を施した加工性の良い材料も製造されています。	合金めっきですが、パウダリング（下記参照）、金型へのビルトアップはほとんどありません。	
溶 融 亜 鉛 め っ き 鋼 板	非合金化	使用原板は一般にめっきライン内の連続焼純で機械的性質が付与されます。めんのライン内の連続焼純は短時間での過熱、冷却となり、本来の工程を通った熱延鋼板、冷延鋼板に比べ加工性が劣ります。高級な原板を使用するか、特殊な処理を施した加工性の良い材料も製造されています。	表面は展延性の優れた純亜鉛層です。原板との境界面に沿って薄い鉄・亜鉛合金層がありますが、その組成と厚さは厳しく管理されめっき層がはく離することはありません。	一般品は熱延鋼板、冷延鋼板に比べ若干加工性が劣りますが特注品としては、加工性の良いものが製造されています。
	合金化	使用原板は一般にめっきライン内の連続焼純で機械的性質が付与されます。めんのライン内の連続焼純は短時間での過熱、冷却となり、本来の工程を通った熱延鋼板、冷延鋼板に比べ加工性が劣ります。高級な原板を使用するか、特殊な処理を施した加工性の良い材料も製造されています。	表面まで良質な鉄・亜鉛合金層が形成していますが純亜鉛層に比べ硬く、展延性が劣るため厳しい加工を受けると微細なキレツが入ったり合金層が微粉となることがあります（この現象をパウダリングと呼ぶ）。	パウダリング等により、非合金タイプに比べ若干加工性が劣ります。しかし、実用上問題になることは殆どありません。

電気亜鉛メッキ鋼板

寸 法 厚さmm×幅mm×長さmm	1枚重量 (kg)	梱包当 り数量	梱包当 り重量
1.0t×1219×2438	23.3	86	2,004
1.2t×1219×2438	28.0	71	1,988
1.6t×914×1829	21.0	95	1,995
1.6t×1219×2438	37.4	54	2,020
1.6t×1524×3048	58.4	34	1,986
2.3t×914×1829	30.2	66	1,993
2.3t×1219×2438	53.7	37	1,987
2.3t×1524×3048	83.9	24	2,014
3.2t×914×1829	42.0	48	2,016
3.2t×1219×2438	74.7	27	2,017

酸洗鉄板

寸 法 厚さmm×幅mm×長さmm	1枚重量 (kg)	梱包当 り数量	梱包当 り重量
1.6t×914×1829	21.0	95	1,995
1.6t×1219×2438	37.3	54	2,014
1.6t×1524×3048	58.3	34	1,982
2.3t×914×1829	30.2	66	1,993
2.3t×914×2134	35.2	57	2,006
2.3t×1219×2438	53.7	37	1,987
2.3t×1524×3048	83.9	24	2,014
3.2t×914×1829	42.0	48	2,016
3.2t×1219×2438	74.7	27	2,017

溶融亜鉛メッキ鋼板

寸 法 厚さmm×幅mm×長さmm	1枚重量 (kg)	梱包当 り数量	梱包当 り重量
1.6 t×1219×2134	33.1	61	2,019
1.6 t×1219×2438	37.9	54	2,047
1.6 t×1219×3048	47.3	43	2,034
1.6 t×1219×4000	62.1	33	2,049
1.6 t×1524×3048	59.2	34	2,013
2.3 t×914×1829	30.2	66	1,993
2.3 t×1219×2134	47.4	43	2,038
2.3 t×1219×2438	54.2	37	2,005
2.3 t×1219×3048	67.8	30	2,034